

練馬グランド全学集会



全学集会提起を伝える『中央大学新聞』

1969（昭和44）年4月20日、練馬グランドで全学集会が開催された。前年暮れの東大入学試験中止決定、69年1月9日の東大全学集会とこれに続く安田講堂の学生と機動隊の攻防など一連の「事件」が生々しく記憶に残るさなかのことであった。

学費値上げ白紙撤回、学生会館管理運営問題等をめぐって生じた本学の紛争は激化し、常置委員会体制完全撤廃を掲げる全学中央闘争委員会（全中闘）と、入学試験と卒業試験の実施をめざす教学側との交渉は難航を続けた。さらに69年2月には全中闘と夜間部自治会の分裂があり、このため大学当局は4月に入ってすぐ昼・夜別、学部別に正常化を目指す話し合いを決めたがうまくいかなかった。ここに至って大学は、未実施のままの学年試験実施と進級決定を主眼とした最終スケジュールを決定し、大学の基本問題を話し合うため全学集会をもったのである。

当日は金子文六学長事務取扱ほか5学部長が出席、学生約1万人が参加した。大学側は紛争解決への姿勢と授業再開など基本方針を説明したが、この集会に反対する学生約千人のデモ隊が壇上付近に陣取った体育連盟の学生たちの間に突っ込み、多数の負傷者を出しながらも続けられ、当局の正常化案が承認されたかたちをとったのであった。